◆　2022 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：社会芸術・寺山支部 炭焼の会　　25A-16

代表者：支部長　萩原　哲哉

URL　：https://artngo16.wixsite.com/socialart

１．活動が必要とされた状況

炭焼の不可思議な力「熱分解」の語を二つに引き離す。「熱」は太陽や火山の放射熱や地熱、生活における保温や加熱などが認められる。「分解」は化学分解のほか、物理的崩壊、微小生物による消化、発酵や腐敗など菌類の働き、さらに社会階層や既得権の解体なども含め、多角的に捉えられる。これを「融合」の語で受けると、「酸化・化合」のほか、「共生」や「共有」の意味が加えられる。

真夏の炭焼アート ワークショップ

長谷川、根本、藤浩委員長、吉田
環境芸術学会秋田大会（パネル・口頭発表）：

大型炭窯制作への挑戦

２．活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

① 「野良の藝術」(社会芸術／埼玉新聞社刊)：出版（6/10）に際し、p.23～25、35、122～125 を寄稿する。

② 真夏の炭焼アート ワークショップ（公開）：7 月 23 日(土)薪割り、24 日(日)着火、～25 日(月)口止、8 月 6 日(土)窯開　参加者 10 名。

③ 環境芸術学会秋田大会（パネル発表・口頭発表）：10 月 1 日(土)～2 日(日)：長谷川千賀子が所属する環境芸術学会の秋田大会に、根本賢、吉田富久一が共同研究者として参加。

④ 「野良の藝術 2022 さぎ山の現場Ⅲ『熱・分解と融合』」（11/25～26 ファーム・インさぎ山）を企画主催し実践。参加者 250 名。

⑤ 環境講演会「渦を見る-熱分解と空気の流れ」11 月 26 日(土)さぎ山記念公園学習室、講師：吉武裕美子(工学博士)。伏せ焼の原理の考察と流体力学の基礎講義。参加者 15 名。

３．活動の成果

本年度は炭焼の会で「野良の藝術 2022 さぎ山の現場Ⅲ 熱・分解と融合」を担当した。「野良の藝術」の活動は地球環境と向き合い、芸術の創造性の根源が里山農と一致することで、縄文より続く里山農による安全な食の回復を果たせる考えである。この活動は複数の地域団体との協力体制で支えられており、今後の新しい可能性が期待できる。

４．今後に残された課題

炭焼の会では、発足当初の会員の老齢化問題が起きている。まるで農家の後継者不足や地方の衰退と同様な構造である。突破口を開くには、活動の社会的位置付けの確認と明確な将来展望を示す必要があり、そして実践にあるだろう。炭焼の不思議な現象とその道理（熱分解）の理解と技術を習得した上で、新たな探求と活用法の開発が見込まれる。炭（土壌改良剤）、廃煙（木酢液）、灰（アルカリ剤）として活用し、里山農法の確立に向けたい。そこで、環境講演会とワークショップとの組み合わせの展開で、今後の可能性を開きたい。